

SNS やイベント出展で達成した 売上増に事業計画の見直しで対応

課題

生産性の向上を図りたいが 設備の老朽化がネックに

肥沃な農耕地が広がる道央の米どころ共和町。人口約6000人の町で家族経営の和菓子製造業を営む有限会社本間製菓の主力商品は、杵つき製法にこだわった「雷電だんご」、地元特産のスイカから抽出したスイカ糖を使った「すいか糖入り雷電どら焼」など。後志管内の大型スーパーや個人店、札幌市内のアンテナショップへの卸売り、行事時の特殊菓子の製造販売、贈答用など広く販路を確立している。最近30代の若き3代目経営者のもと SNS の活用や催事への出展に力を入れ、メディアへの露出が増えたこともあり、順調に売り上げを伸ばしている。

だが、さらなる生産性の向上を図るには大きな問題があった。製造設備の老朽化だ。衛生管理強化の観点からも急務の課題となっており、設備の更新について共和町商工会に相談をもちかけた。経理業務の効率化の必要性を痛感していたこと、自社店舗の保有も検討していたこともあり、今後の事業計画全般を一から見直すことになった。

支援

ものづくり補助金の申請や 中・長期事業計画の作成を支援

商工会は喫緊の課題である製造機械の更新について、メーカーの保守点検票のチェックから着手し、必要な機械をアドバイスする専門家を紹介して優先順位を検討。効率面から優先順位の高い「雷電だんご」の製造機械の導入を決めた。

あわせて設備導入にかかる費用の補助金の申請手順や書き方の指導など、きめ細かなサポートを行い、事業計画の重要性を理解してもらうよう働きかけた。

続いて、新たな販路拡大プランを検討。経営者が得意とするインターネットを活用し、SNSでの拡散を意識した、いわゆる「インスタばえ」する商品づくりの提案を行った。平成29年の小樽スイーツフェスタへの「ニセコ産米粉たい焼き」の出展に際しては、焼きたてを提供。ブースで使用するのぼりやPOPのイメージの統一を図るなどして臨んだところ、行列ができる人気を博し、SNS上には「#カリッと焼きたて」「#本間製菓」などのハッシュタグがついた投稿が多くアップされるなど、販路拡大に向けて好感触を得た。

また、イチゴ大福などの季節の食材を取り入れた商品をは



「雷電だんご」と「雷電どら焼き」

じめとして、季節限定・期間限定商品で商品アイテムの充実を図る一方で、利益率の低い焼菓子の縮小などの提案を行うなど、商品ラインナップの見直しも実施した。経理業務の効率化は、商工会の記帳代行の検討を助言。自社店舗の新設については、経営者は当初、場所の移転も含めて総額8000万円の設備投資を考えていたが、財務状況から適正限度額は2000万円と算出し、段階的に進めるようアドバイス。長期借入れを実施して資金繰りも改善した。

今後は中期・長期経営計画の策定、財政健全化のサポートを続けていく。

支援の経過

期間	支援内容
H27年4月～	商談会・催事等出展支援
H28年5年	持続化補助金の申請支援
12月～	①事業承継に係る支援 ②専門家派遣事業を活用した支援 ・生産性向上設備強化支援 ・生産性向上に係る事業計画見直し支援 ・販路拡大、販路開拓に向けた支援 ・経営状況分析支援および税務支援
H29年1月	事業承継に係る支援
H30年8月	経営革新計画に係る承認申請支援
9月	ものづくり補助金の申請支援

会社概要

会社名：有限会社本間製菓
 住所：北海道岩内郡共和町国富1-5
 電話番号：0135-72-1046
 URL：http://www.honmaseika.com/
 代表者名：代表取締役 本間大輔
 創業年：昭和22年
 年間売上高：3500万円（平成28年）
 従業員数：5名
 商工会名・担当者名：共和町商工会・高見正人